

## 平成30年度 学習定着度に関する調査結果について

### < 1 学年 >

国語，数学ともに福岡市の平均と比べ同程度である。  
具体的には以下のようなものである。



#### 【国語】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「書く能力」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「話す・聞く能力」「読む能力」の全ての観点において，同程度である。
- 大問別得点率では、「話すこと・聞くこと」「読むこと（説明的文章）」「読むこと（随筆）」「書くこと」の全ての大問において，同程度である。

#### [国語科の課題と今後の取組について]

- 「話す，聞く能力」は，スピーチなどの機会を数多く設定し，力をつけていくことが必要である。2学期末と3学期の初めに，表現活動とスピーチのコンクールを行い学年生徒には意識付けがなされたと考える。今後も継続して取り組んでいきたい。
- 「書く能力」は，伝えたい事柄について，根拠を明確にして書けるようになることに課題があると考えられる。今後は，条件作文に取り組む機会を設けていきたい。
- 「読む能力」は，文章の展開に即して，情報の整理と内容の把握ができる指導が必要である。中心文をとらえる読み取りの力や，資料やグラフなどを読み取り，そこから思考判断し，文章の読解に役立てていく力も必要とされる。また，文学作品では登場人物の心情を理解していく力も必要となる。国語科の授業の中で，「めあて」を明らかにし，つきたい力を育てていきたい。

#### 【数学】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では，「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」については，同程度であり，「数量や図形などについての知識・理解」において，やや上回っている。
- 大問別得点率では，「方程式」について努力を要し，「各領域の小問題」「正の数・負の数」「文字を用いた式」「変化と対応（活用に関する内容）」は同程度であり，「比例式」については，やや上回っている。

#### [数学科の課題と今後の取組について]

- 観点別得点率から，知識・理解を定着させる必要がある。授業内での小テスト等でくり返し練習を行っていく。
- 大問題得点率において，「方程式」の習得が課題であり，定期考査に毎回出題したり，学習プリントを活用したりして，機会あるごとに方程式に触れるように仕組んでいく。

## < 2 学年 >

国語の得点は、福岡市の平均と比べやや上回っている。数学の得点は、福岡市の平均と比べ同程度である。昨年度の国語は、同程度であった。

具体的には以下のようなものである。



### 【国語】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「話す・聞く能力」「読む能力」「書く能力」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての観点において、やや上回っている。
- 大問別得点率では、「読むこと（随筆）」は同程度であり、「話すこと・聞くこと」「読むこと（説明的文章）」「書くこと（活用に関する内容）」については、やや上回っている。

### 【国語科課題と今後の取組について】

- 単元ごとに、課題に対しての条件作文に取り組む時間を設定する。
- スピーチやプレゼンテーションなどの機会を増やす。今年度、群読の発表をすることで生徒の意欲にもつながったので、今後も続けていきたい。
- 語彙力の不足が見られるので、いろいろなジャンルの文章を読む機会を増やすように作品の紹介や読書量を増やす取り組みをする。

### 【数学】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「数学的な技能」において、努力を要し、「数量や図形などについての知識・理解」「数学的な見方や考え方」は、同程度である。
- 大問別得点率では、「各領域の小問題」は努力を要し、「連立方程式」「資料の活用」「一次関数」「図形の調べ方」「空間図形」「文字式の利用」は同程度であった。

### 【数学の課題と今後の取組について】

- 観点別得点率から、技能面の向上と思考力を養う必要がある。日頃から数学的な技能を問う問題に触れる機会を増やしていく。
- 大問題得点率において、「各領域の小問題」の解法をしっかりと押さえることが課題であり、取り組みを必要とする。

